

1.15 winter 2024

〒810-0001福岡市中央区天神5丁目2-1

公益社団法人 福岡県美術協会(福岡県立美術館内)

tel:092-713-4200 fax:092-791-1472

E-mail: fasartseven@wing.ocn.ne.jp

https://fukuoka-ken-art-society.com/

X(IH Twitter)/fasartseven

## 第78回 福岡県美術展覧会 〈会員の部〉 「福岡県立美術館 60周年」

彫刻 宮脇 俊幸  
「不憫な翼」  
富永朝堂賞

卵が芽吹くという奇想から発展し（移動出来ない樹木が花や葉を翼に変え、飛んで行きたい意思を持ちながら叶わず、卵を優しく抱き、その卵から新たに生命が芽吹いて未来を想像する）という作品。少し迷った点は高さで、低いとスケール感がなくなり、高いと視野が悪くなる。少し上から見降ろす角度が最適です。



日本画 倉橋 協子  
「爽日」  
山本文房堂賞

時間の流れがしみ込んだコンクリートの壁に、小さなピンク色の花をつけた野草が垂れ下がっていた。爽やかな風が吹く午後、ふと目にとまって作品にしてみた。今回はいつもより墨を多用した。岩絵具を使うところと墨で表現する部分のバランスによる効果等を、今後も模索していきたいと思っている。  
此度は誠に有難うございました。

写真 森山 峰熙  
「老人と鳩」  
福岡県美術協会賞

時折出会うこの老人に魅力を感じ、写真を撮らせて貰えないかと申し込んだところ「ダメ」と一蹴されました。それからは出会う度に挨拶を重ね世間話も出来るようになる中、この度の場面に会いました。再度撮影を申し込みやっと「承諾」をいただき、正面から向き合っただけで撮った一枚です。一蹴されてから4年目の事です。





【工芸】松枝 小夜子  
「波濤を超えて」  
豊田勝秋賞

海に地球の心音を聞く。水面の高低運動・波をテーマにシリーズ化し、制作しました。家業である久留米絣の純正天然藍による染め、「たてよこ絣」の括り・織りなど36工程の手仕事に向き合い40年。亡夫・哲哉と同賞を賜り光栄です。受賞を励みに今後も伝統工芸久留米絣を文化としても継承し、繋いでまいりたく、精進致します。



【日本画】毛利 章子

「こもれば」

福岡県美術協会賞

今回は美術協会賞を頂きありがとうございます。孫と散歩をした時の光景ですが、自分の足元に落ちた光に驚いて不思議そうに見つめていたのが印象的で描いた作品です。衣服の表現や光と影のバランスに苦しみながらの制作でした。課題も多く見つかり、これからの作品に向けて学んでいこうと思っております。

【書】龍 玄海

「禅語」

岩田屋三越賞

縦に四文字「眼横鼻直」と禅語を書きました。淋しくならないように文字の大きさ、墨量に注意しました。いつも筆と紙の出合いには苦労します。ああでもない、こうでもないといと試行錯誤のくり返しの中で最後の最後まで書いた一枚です。御審査いただきました先生方には感謝の気持ちで一杯です。誠にありがとうございました。



【洋画】久富 菜穂子

「不撓不屈」

福岡県美術協会賞

この度は、身に余る賞を頂き誠に有難うございました。驚きや嬉しさと同時に大変恐れ多く身の引き締まる思いです。厳しい時代ではございますが、何ものにも屈することなく鮮やかに咲き誇る毎日という願いを描きました。制作の現状にはまだ多くの課題がありますが、私らしい絵画の表現を目指し、より一層精進して参ります。



【彫刻】寺本 幸弥  
「新天地」

豊福知徳賞

今作は人体を複数組み合わせることで作品にどのような広がりが見えるかを考え制作した。作品内の人体は1人では自立できないが、3人が台座の鉄板で繋がることでお互いを支えて存在している。作品の存在が人間の支えあいの状態となっており、お互いを補うような関係性にも捉えられる作品になったと感じる。





洋画 八木真恵  
「KABU」  
山本文房堂賞

表現方法を鉛筆画にして15年余り、白黒モノトーンの織りなす深潤は深く、あたかも音のない世界にも思えます。対象となる題材は時として優しく、時として厳しく描き手を苦しめますが、完成に至った時の達成感は絵を描く喜びを与えてくれます。私の絵画の旅はまだまだ続きますが、さらに完成度の高い世界を目指します。

デザイン 市丸美波子  
「色」  
福岡県美術協会賞

毎日のように繰り返し報道される戦争の画像。どうしても明るい作品を描く思いになれなかった。昨日まで色に溢れた街は、今日は無いのだ。夢のようなことが現実はこの青い地球で起こっている。画面文字の「色」を滲ませ爆発跡のように水滴を落とし国色点に爪で引っ掻きを入れた。平和の願いが色で伝われば幸いです。



洋画 城水弘子  
「昔日Ⅲ」  
青木寿賞

何時どの様な風景に出会うか分からないので、出掛ける時はカメラをバッグに入れていきます。今は誰も住んでいない朽ちかけた家に惹かれました。昭和の時代、大家族だった温かさを廃屋を通して描いてみようと思いました。出来る限り美しい色で描き上げる事に決めました。



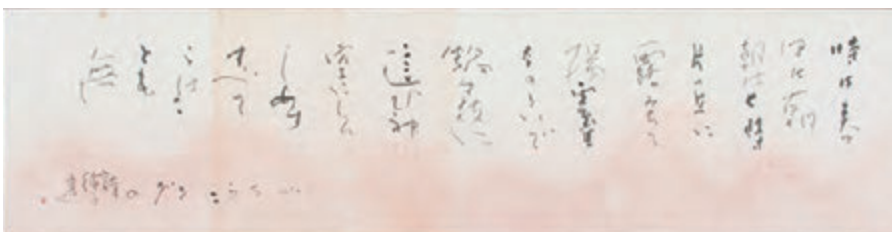
彫刻 津田三朗  
「scape 2023」  
安永良徳賞

あの道はどうなったのだろう。2011年12月東京から女川へと向かう車からの風景。津波で打ち上げられた船、倒れたビルやクシャクシャになった家々、何もかもが攫われた海岸線に沿って走る道は、折れ曲がり切断され重なりながらも北へとつながる一筋の希望の道でもあった。そんな道を忘れ得ない記憶として立ち上げてみた。

写真 米子浩幸  
「眼光」  
岩田屋三越賞



この作品で表現したかったことは、猛禽類が獲物を狙う際の眼光と迫力です。水の中のマスを捕る直前の顔を望遠レンズを使い撮影しました。苦勞した点は、被写体を真正面で捉えること。正確に瞳にピントを合わせることに。僅かなブレも無いこと。この3点を気を付け、作品に迫力を持たせることに成功しました。



書 馬場純子  
「ブラウニングの詩」  
福岡県美術協会賞

この度は思いがけない受賞に恐縮しております。沢山の歌を選ぶ中で今回のブラウニングの「春の朝(あした)」から感じるあたたかい光のようなものに心惹かれこの詩を作品にしたいと思いました。これからまた素晴らしい歌達を素敵に表現できる様励んでいきたいと思えます。改めて先生方、家族に感謝いたします。

# 第78回福岡県美術展覧会を振り返って

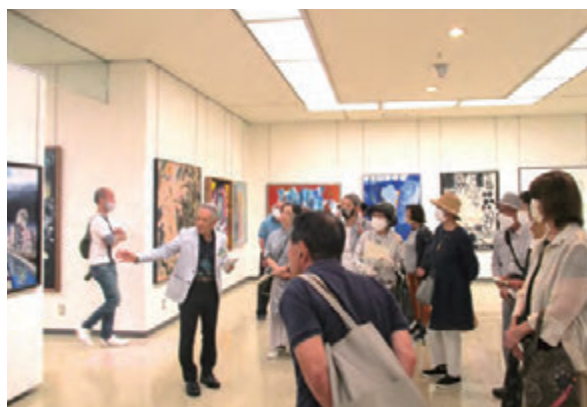
福岡県美術協会 理事長 小田部 黄太

本年も9月5日(火)から10月1日(日)に、福岡県立美術館において第78回福岡県美術展覧会(以下「県展」)を開催いたしました。

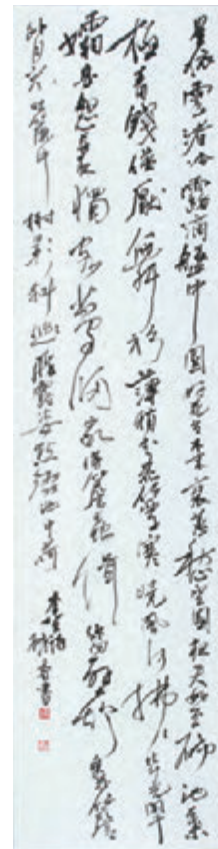
今年の公募でも、多くの優れた作品、意欲的な作品が出品され、私も審査に立ち会いましたが、厳正にそして活気のある審査が行われました。入賞作は言うに及ばず、入選作にも多くの見るべき作品が並び、会員の部の展示も合わせ、今回も素晴らしい展覧会になったと感じております。出品者の皆様、そして協会会員の皆様はじめ、美術館スタッフ等関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

さて、今回の出品数は2,441点、前回は2,501点ですのでやや減少している状況は続いております。今回より始めました写真部門のWEB出品もまだ始まったばかりで、まだまだ数多くの出品につながっているとは言えません。これにつきましては状況を把握しつつ、必要な改善につなげてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、「県展」そのものの課題を明確にし、令和11年の大濠公園の新県立美術館の開館に向け、より魅力的な「県展」にしていくべく、協会として果敢に取り組んでいくことが求められております。会員の皆様のご助力をお願いいたします。



第78回県展洋画部門 合評会



書 大塚 啓香

「李賀詩」

山本文房堂賞

明るい作品を書きたいと思っていた。李賀の詩は、過去に好きでよく書いた。久しぶりに選んだのは七月八月の詩。この時代の中国の夏は今の日本の様に暑くないと思われ、詩は涼しげで美しい。細い筆を使い情景が明るく表現できる様になりたいながら取り組んだが、少々固い作品になってしまった。



工芸 井上 菊

「播落花文花器」

岩田屋三越賞

この度は会員賞をいただき光栄に存じます。口コ口挽き、掻き落とし技法による表現です。工房に咲く菖蒲の花をモチーフに模様を施しました。限りある美の永遠性をテーマに今後も制作に励んでまいります。



デザイン 江頭 一博

「色の3原色」

岩田屋三越賞

テーマが「色」と言う事なので、仕事柄印刷の色が最初にうかびました。印刷物を見てもわかりませんが4色(青・赤・黄・黒)の点で写真・絵・文字が紙に印刷再現されます。今回の作品は、人体を大きな点で表現したら面白い作品が出来ると思い制作しました。なお、点は正しくは「網点」といいます。ありがとうございました。

## 今後の県展について

福岡県美術展覧会

# 県展

日本画・洋画・彫刻・工芸  
書・写真・デザイン

理事長 小田部 黄太

「県展」は私ども福岡県美術協会にとりまして、まさにその中核というべきものであります。率直に申し上げますと、現在「県展」の出品数は1990年代の4,500点を超える状況から減少を続けており(これは「県展」に限らず公募展においては日本全国でのことではありますが)、このことが財務的な観点からも大きな課題となっていることは否めません。それに加え、令和11年の新県立美術館での「県展」開催に向け、そこまでのあと5年間の「県展」の開催に関し、今様々な課題が立ち上がりつつあります。協会としましては魅力的な「県展」の開催、そしてその改革に向け、これまでやってきた事に固執することなく、柔軟な発想で、様々な可能性を排除せずに、これらの課題に果敢に向きあってまいりたいと考えております。会員の皆様にも様々にご意見やアイデアなどをいただきながら、より魅力的な「県展」、より良い美術協会にすべく取り組んでまいります。

よろしく願いいたします。

# 2023福岡県 シニア美術展を終えて

シニア美術展担当理事 山本 隆明

今年のシニア展は例年、前期・後期の2期で行っていたのを1期で行いました。そのため廊下にも展示したり、写真は2段掛けにしたりもしましたが、全体としては密度のある展覧会になったと思っています。

また、人生を長く生きられた方々ならではの温か味のある作品も多くみられました。描いたり、作ったりする事の原点である表現するよろこびを感じます。ぜひ、会員の皆様を含め広く県民の方々にも、観てもらいたいです。

最後になりましたが、数多くのかたに、展示その他の作業を快く協力していただき、ありがとうございました。次回もよろしくお祈りします。



服部知事と各部門の最優秀賞受賞者  
2023年12月2日クローバープラザ

## 第31回ふくおか県民文化祭2023 2023ふくおか県障がい児者美術展 「絵画・書道・写真」

昨年同様福岡県美術協会より審査及びギャラリートークのため、絵画 宇美 拓哉さん、書道 北村 久峰さん、写真 和典さんを推薦致しました。



### 作品展示会

- 11.7(火)-11.17(金) 福岡県庁
- 11.21(火)-11.26(日) 九州芸文館
- 12.5(火)-12.10(日) 北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー
- 12.13(水)-12.17(日) 嘉麻市立織田廣喜美術館

### ギャラリートーク

- 12.2(土) クローバープラザ(春日市)

# 県展写真部門「web応募」の可能性と展望

西日本新聞写真デザイン部長 岩崎 拓郎

78回目を迎えた2023年県展で、写真部門は初めてwebを通じての作品応募が可能になりました。1949年に「写真部門」が創設されてから実に74年。フィルムの時代から、ほぼ完全にデジタルの時代に切り替わった今、自然な流れと言えます。

シャッタースピードや露出、被写体へのピント合わせまで、全てがオートマチックに進むこともある時代です。例えば、スマートフォンならば、片手一つで目の前に広がる偶発的な光景をも、瞬時に「1枚」の静止画として残すことができます。極論するなら、それはそのままコンテスト出品へと通じうるわけで、web応募の「手軽さ」こそは、これまで継続的に写真に向き合ってきた人々はもちろん、これから興味を持つようとしている人々に対して、裾野を広げる上で大きな意味を持つことと信じております。

昨秋のことです。福岡市内で開かれた、とある写真コンテストの公開審査を観客席から見つめました。ある審査員が、「スマホで撮影した写真も作品として素晴らしいものもあるが、撮影後のトリミングやレタッチを含めて、撮影者の意図・意欲、創意工夫を突き詰めなければ、そのクオリティーは自ずと低下を招きかねない」とする主旨の「苦言」を呈しました。確かに、うなずけます。これからのweb応募にも、当てはまる要素が出てくるのかもしれない。

聞くところによると、昨年の県展写真部門には計471人が応募。うち50人がweb応募とのこと。さらに、この50人のうち20人は、県展に初めて応募したというファクトを考え合わせると、微量ながらも裾野の広がりも年々増していくと考えることもできます。

一方で、入賞・入選計285点のうち、20点がweb応募でした。詳細な撮影データは知る由もありませんが、それらの作品をまじまじと見つめると、やはり作者それぞれの伝えたい「心」なり「テーマ」なりが、とても力強く映し出され、いずれも甲乙つけがたい秀作と感じました。「何を、伝えたいのか」。やはり、これこそが、写真作品の揺るぎない根拠として存在すると言えます。

現在の県立美術館は、福岡市美術館もある大濠公園への移転が決まり、2029年度の開館予定と聞きました。そこを見据え、今後ますますweb応募の周知強化を図ることが大切であり、それがさらには、この県展写真部門の可能性を広げてくれるのでは、と思います。

## 福岡県立美術館 「スクール・ミュージアム事業 (アートコース)」 美術協会員6名を講師として招聘

福岡県立美術館 普及課

白井 ちはや

福岡県立美術館では、県内の公立小・中・義務教育学校・高等学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒を対象に作品鑑賞を通して美術に対する興味関心を高めることを目的としたスクール・ミュージアム事業を実施しています。今回、県展会期中に4校が来館し、彫刻、写真、日本画、工芸、デザイン、洋画などの優秀作品を鑑賞しました。その際、美術協会員の高野直幸氏、角和典氏、湯之原淳氏、毛上紀子氏、筒井知徳氏、宇美拓哉氏に作品解説や実演をしていただきました。作品の見方や感じ方へのアドバイス、制作過程の実演など、児童生徒はもちろん、引率の先生方からも大変好評をいただきました。



## 福岡県文化会館 建設 60 年に寄せて

福岡県立美術館 館長 寺崎 雅巳

令和6年は、福岡県立美術館の前身であり美術館と図書館の複合施設であった福岡県文化会館の開館から60年を迎える節目の年となります。昭和39年に開館した福岡県文化会館は、全国的に見ても最初期の公立美術館であり、福岡市内に初めて設置された美術館でした。昭和40年に開催した「ツタンカーメン展」の入場者数が約58万人を記録するなど、多くの県民の皆様が御来館いただきましたが、その活動を一層発展させるため美術館と図書館を独立させることとなり、昭和60年に単独施設である福岡県立美術館として再スタートを切りました。

福岡県立美術館では、福岡県文化会館時代の活動を礎としながら、福岡県ゆかりの作家や美術動向について調査研究した展覧会を開催するのみならず、国内外の多種多様な美術表現を紹介する展覧会にも数多く取り組んでまいりました。

令和11年度には新福岡県立美術館の開館が予定されておりますが、今後も福岡県の文化芸術の発展に資するよう取り組んでまいります。

## 福岡県立美術館で出会えた 県ゆかりの作家の展覧会に想う

洋画部 田浦 哲也

2020年美術協会の創立80周年を記念して、福岡県立美術館で、『「県展」と共に歩んだ作家展』が協会と美術館の共同企画で開催されました。

美術館所蔵作品65点と現協会会員の選抜作品68点が展示されましたが、福岡県に住み、その風土に育てられた現在「県展」と共に歩む作家にとって、大変有意義な展覧会であったと思います。またその「県展」は、1965年第21回展より、毎年会場(当時の文化会館)として使用させていただいており、長きにわたり発表の機会を与えてくださっている県立美術館の存在に改めて感謝の気持ちを感じました。

県展50回を記念した記録集『福岡県展史1940～1994』を、美術協会、県立美術館、朝日新聞社で構成される県展実行委員会が編集し1999年に刊行されましたが、それに伴い『福岡県展事始め展』が開催され、県展の草創期を振り返り美術協会の原点を再確認させる内容でした。

その他にも「県庁舎新築記念洋画展」「福岡県美術協会第20回記念展」「イメージの風土学」「2つの美術山脈」など県立美術館で出会えた数々の展覧会は、地元作家に大きな勇気と力を与えています。

新しい県立美術館は2029年の完成予定とのこと、ぜひこのような良好な関係が続きますことをお願いしたいと思います。



## 県立美術館のおもいで



公益社団法人  
福岡県美術協会名誉会員 (日本画)

古野 靖弘

60年前、複合施設である美術館が完成した。力強い斬新な建築で、作品発表の場に苦勞していた作家・美術愛好家は歓迎であった。足元に美術文化の種が播かれたことで、県展を始め大型の展覧会が続き、隣地の市民会館とともに天神北の文化圏を成してきた。県展の出品数は4,000点を超えるなど質・量ともに全国有数の展覧会となり、美術文化の発展の核としてリードしてきた。

美術館専用となり「よりどころ」として展覧会を見るだけでなく、交流・お茶・食事など個々の存在を活かす場となり、創造性を育むこととなっていることは大きい。

美術協会は、館内に事務局としてのスペースを貸していただき懸案の社団法人化に取り組んだ。私は何の知識も無いまま日本画部門の事務局員として他部門の6人とともに事務局長のもとに出向くこととなった。勤務後のことで疲れてはいたが、岡(写)・荒巻(日)両先生に定款・事務取扱い、さらに部門の規定作成のご指導を受けた。

昭和62年、小田部・長谷川正副理事長の時、法人化を実現したことで、美術の普及・振興の目的達成のため活発な取組みを可能とし今に至っている。しかし、活動の過程で問題が生じたことも少なくない。多くの面で美術館のご厚情に支えられてきたことが忘れられない。「おもいで」の尽きるところ感謝の念のみである。

### 美術協会HPの会員個人ページに作品写真を!

福岡県美術協会ホームページに、各会員専用のページがあるのをご存じですか?このページには、会員の皆さんの受賞歴等(400字以内)とともに作品の写真を3枚まで掲載することができます。載せ方は簡単。掲載したい写真を事務局に紙かデータで届けて頂ければ結構です。使わないもったいないです。みなさんの力作をぜひ載せてください。



### 県立美術館臨時休館のお知らせ

**2024年1月5日(金)～3月31日(日)**  
館内工事に伴う休館となります。

まるた窯  
窯元

た 太田剛速

(工芸部会委員長 理事)

Taketoshi Oota

朝倉郡東峰村小石原711

TEL: 0946-74-2220

<https://ootagama.com>



〈 賛助会員のご紹介 〉

多くの企業の御支援をいただいています。

- 九州電力(株)
- (株)福岡銀行
- 西部ガスホールディングス(株)
- 西日本鉄道(株)
- (株)西日本シティ銀行
- (株)九電工
- 九州旅客鉄道(株)

朝日自動車(株)	(株)テレビ西日本
(株)味の兵四郎	東美 福岡店
ASOポップカルチャー専門学校	長門博之法律事務所
有澤ホールディングス(株)	(学)中村学園
(株)岩田屋三越	(学)中村産業学園
(株)ヴォイス	(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
(株)ACR	(株)中村美術堂
(株)エターナルラボ	日本デザイナー学院
大松隆税理士事務所	(株)博運社
北九州書道協会	筥崎宮
(株)喜多屋	晩香堂
ギャラリーSEL	(株)樋口工業
(株)久原本家グループ	福岡芸生美術会
健康住宅(株)	福岡ロジテム(株)
社会福祉法人さわやか会	(株)平助筆復古堂
(株)サンビルテックシステム	平成美術(株)
(株)上海堂	墨扇堂
祥文社印刷(株)	(株)みぞえ画廊
(資)書材の丸大	ミナミ画材
(株)新出光	南谷総合法律事務所
(株)杉田写真館	(株)山本文房堂
(株)ゼンリン	文房四宝 和美創
太宰府天満宮	
タマホーム(株)	

## 新県美デザインワークショップ vol.2

デザイン部 阿比留 潔

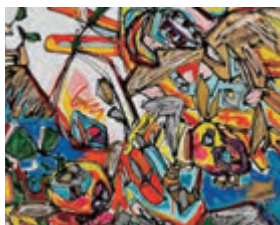
新福岡県立美術館(以下新県美)は、街と公園をつなぎ、さらに館内を通り抜け出来る空間など、地域環境との一体化がコンセプトとなっています。

新県美の設計者・隈研吾さんによる設計プランの検討状況の紹介からはじまった第2回目となる今回のワークショップは、特徴となる吹き抜け空間「メディアヴォイド」や、大濠公園と六本松方面をつなぐ「アーバンスリット」などについて、290名ほどが参加し30名が隈研吾さんとグループワークを行った後で意見交換を行い、また、会場の一般参加者も付箋に意見などを記入しボードに貼付けて参加するワークショップ形式で、私を含む参加した協会関係者がそれぞれに提案することが出来ました。

開館が予定される2029年には福岡県美術展覧会(以下県展)の開催が期待され、私たちはこの新しい美術館に舞台を移し、運営・開催するための具体的な準備を行わなければなりません。駐車場に入庫できる台数は十分なのか? 搬入や搬出の動線はスムーズか? など施設環境面も気になりますが、今後県展は、表彰式やレセプションに至るまで新県美や併設されるレストランなどを利用し「会場の一本化」で開催できるのではないか? また展示面では、7部門の展示がどのような形になるか? デジタル作品に取組む部門に対応する展示方法(モニター展示など)にも期待できるのではないか? など、これまでの県展とはひと味もふた味も違った様々な角度からの魅力づくりが可能となるかもしれません。

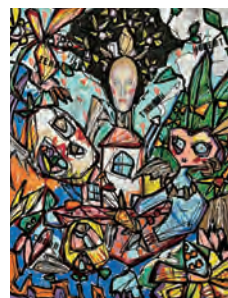
これから数年間の準備期間で福岡県美術協会がこれまで培ってきた確かな経験を礎に「新しい県展の姿」を創造し、語り合い、そして提案・検討などを行い、県民が真に喜んでいただける県展を開催できるよう、まずは関係各所と対話ができる環境を整えていく必要性があると感じた今回の新県美デザインワークショップとなりました。

### 福岡市長室に作品展示されています



市長会見室展示作品

1月9日から2月初旬まで、福岡市役所の市長会見室及び応接室に、洋画部会員すぎもりえいとくさんの作品4点が展示されています。高島市長の会見の際、背景に作品が映ると思います。



応接室展示作品

〈作品への想い〉

「Dreamerという私にとっての「妖精」をテーマとして創作しています。目には見えない自然界の生命エネルギーに形を与えてDreamer達を生み出しています。作品を観てくださる方々の心に生き生きと明るい気持ちにしてくれる幸福の種を蒔いてくれると信じています。」 すぎもりえいとく

### 謹んでお悔やみ申し上げます

- 渡邊 知子さん (92 歳) 洋画部会員 令和 5年 6月
- 田中 三堯さん (92 歳) 彫刻部会員 令和 5年 7月
- 姫野 善久さん (70 歳) 写真部会員 令和 5年 8月
- 草場 蒼龍さん (88 歳) 書部会員 令和 5年 11月

### ◆ 宇美絵画教室 ◆

水彩画、アクリル画など

気軽に始めてみてはいかがですか? (〇) b  
初心者の方でも歓迎します。

九州芸文館アカデミー講座  
サザンクス 筑後講座  
上津市民プール講座  
その他教室

問合せ先 携帯 090-5935-0969  
福岡県美術協会 洋画部 宇美 拓哉

額ぶち

# ヒグチ

〒839-0833 久留米市大橋町常持245-5

TEL (0942) 47-0622  
FAX

製造・卸・小売

## 内藤 額 縁 店

ホームページ <https://www.naito-gakubuchi.co.jp>  
mailアドレス info@naito-gakubuchi.co.jp/  
本店 大川市向島出来島2156-6  
TEL (0944) 88-3223  
FAX (0944) 88-3222  
支店 大牟田市浄真町 53  
TEL/FAX (0944) 56-9284

# fas gallery

展覧会・出版のご案内

●展覧会の予定については諸事情により変更となる場合があります。  
開催の有無をご確認の上、お出かけください。

## 原 小夜・平和への祈り展 テンペラ+油彩画

■<前期>1月8日(月)-1月27日(土)  
■<後期>2月5日(月)-2月24日(土)  
■ギャラリー豊you

※開廊日 月・火・金・土  
世界の平和に 祈りを込めながら描いた作品を中心に展示いたします。ご覧いただければ幸いです。  
(原 小夜)



「正義の暴走」原 小夜

## 峰松由布子 日本画展

■2月13日(火)-  
2月18日(日)  
■ギャラリー風

小作品から大作約20点を展示予定です。5年ぶりに開催する個展になります。ご覧いただけましたら幸いです。  
(峰松 由布子)



「Sparkle」峰松 由布子

## 光行洋子 展

■3月2日(土)-  
3月17日(日)  
■みぞえ画廊(福岡)

6年ぶりの個展。自然をテーマに大作から小品まで油彩、アクリルの新作約30点を展示。  
(光行 洋子)



「樹氷」光行 洋子

## 第107回 二科展 巡回福岡展

■3月19日(火)-3月24日(日)  
■福岡市美術館 ギャラリー A・B・C・D・E・F

巡回作品+地元作品(県美術協会会員を多く含む) 絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門約340点を展示します。  
(田浦 哲也)



「通り過ぎた風景」楢岡 和子

- ・ギャラリー豊 you …… tel 090-3195-3387
- ・ギャラリー風 …… tel 092-711-1510
- ・みぞえ画廊(福岡) …… tel 092-838-5655
- ・福岡市美術館 …… tel 092-714-6051
- ・ぎやらりいサムホール …… tel 03-3571-8271

## 松永瑠美 展

■3月26日(火)-  
3月31日(日)  
■ギャラリー風

抽象表現の中に生命を感じさせ、心に響く作品を描きたい。新作を含めた約20点を展示。  
(松永 瑠美)



「alive」松永 瑠美

## 瀧井利子 個展

■4月1日(月)-  
4月6日(土)  
■ぎやらりい  
サムホール

県展出品から57年。勇気を出して初めての個展開催。  
(瀧井 利子)



「父のいた作業場で待つ」瀧井 利子

## 第90回 独立展

■4月9日(火)-  
4月14日(日)  
■福岡市美術館

国立新美術館で10月に開催された第90回独立展の内から会員、受賞作など約94点を展示する。  
(中原 未央)



「土(アダマ) miserère」山田 依子

## 自由課題 たなけん展Vol.9

■4月16日(火)-  
4月21日(日)  
■福岡市美術館  
市民ギャラリー B・C

九州産業大学短期大学部名誉教授・田邊幹夫先生と生徒達の展示会。今回で9回目となります。  
(原野 恭子)



「The SUN」小林 広美

## 第31回 行橋市美術展覧会

■5月17日(金)-5月20日(月)  
■コスメイト行橋

行橋市、豊前市、京都郡及び築上郡に居住又は在勤のかたを対象とした公募展。  
(工藤 崇峰)



コスメイト行橋

- ・コスメイト行橋 …… tel 0930-25-2300
- ・北九州市立美術館  
黒崎市民ギャラリー …… tel 093-644-5206
- ・ギャラリー SEL …… tel 092-741-4890
- ・田川市美術館 …… tel 0947-42-6161

## 第77回 示現会 福岡展

■5月21日(火)-5月26日(日)  
■福岡市美術館

4月に東京国立新美術館をスタートし、全国14か所にて巡回。巡回作品と地元福岡・久留米・日田・佐賀・長崎・山口の部員の作品を展示いたします。  
(瀧井 利子)



「都市の景」井上 武

## 第77回 示現会 北九州展

■5月28日(火)-6月2日(日)  
■北九州市立美術館 黒崎市民ギャラリー

巡回作品と地元福岡、北九州等の作品を展示いたします。  
(瀧井 利子)



「遙か有明を望む」波多野 雅子

## 重富貞美 展

■6月11日(火)-  
6月16日(日)  
■ギャラリーSEL

10年ぶりに個展を開催します。作品を25点程展示致します。  
(重富 貞美)



「初秋の瀬の本高原」重富 貞美

## 「restart67」 園こうじろう 個展

■6月11日(火)-  
6月16日(日)  
■田川市美術館  
ギャラリーB

写真の可能性を追求する作品展です。  
(園こうじろう)



「a face」園 こうじろう

## 編集後記

12月の中旬には、皆様のお手元にお届けできるはずのfas66号は、県立美術館開館60周年特集企画のため、一月ほど遅れてのお届けとなりました。

開館来の60年間に共に歩いた美術館と美術協会に思いを馳せるご寄稿をありがとうございました。

60年前を思えば、1964年県文化会館設立の準備段階から美術協会は、各種文化団体をとりまとめ、協議会の核として設立実現に向けて動いたと聞いています。

2029年の新県立美術館設立に向け、新たな美術、芸術を囲む人の輪を広げていく事ができればと思います。

(文責:広報委員会 津田三朗)